

丸木位里と故郷・飯室をつなぐプロジェクト 芸術と平和のまち・飯室の未来に向けて

プラットフォーム安芸飯室運営委員会
広島大学教育学部造形芸術系コース有志

大谷七海、原田真日瑠、新宅麻由、市原凧紗

本プロジェクトの背景

「丸木位里の作品と平和活動を受け継ぎたい」
地域の声を受け2021年度発足



1年目

プロジェクト発足

現地での丸木位里作品の調査、
講演会

2年目

丸木位里の活動報告、平和発信
のためのアートイベント

飯室にゆかりのある**4人**の画家
にも視点を広げ調査、講演会

+ 小冊子の作成、パネル展示




4人の画家…丸木位里と交流がある芸術家 丸木スマ、大道あや、中谷ミユキ、佐々木邦彦

今年度の活動計画

3年目

- 地域に共有してきた2年間の成果を未来の世代に向けて伝える
- 丸木位里と交友が深い同郷の画家・佐々木邦彦作品の調査

- 
- ・ 児童館のワークショップ（8月4日）…丸木スマの画法を体験
 - ・ アートイベント（8月6日）・・・ワークショップで完成した樹の展示
 - ・ **清和中学校との連携授業（11月20日）**
 - ・ **+小冊子作成、パネル展示**

ワークショップで完成した樹の根っこ部分に、地域のみなさんのコメントや願いが加わったもの
芸術を通してできた世代間の繋がりが、今年度の活動における平和の表現になりました



中学校での出前授業

- 2023年11月20日 広島市立清和中学校にて開催
- 題材名 『地域に発信！！佐々木邦彦作品の魅力』

概要

- ・ 校内にある作品を班ごとに一つ選んで作品を鑑賞する
- ・ 作品の魅力が地域の人に伝わる掲示物を作成する



中学生ならではの
気づきが沢山！！

作品鑑賞中の様子

中学校での出前授業

掲示物作成を通して

中学生が発信者になることで、地域全体で飯室の芸術を守り継承していくきっかけづくりに

学生の感想

少人数体制の授業をすることができ、生徒一人一人と深く関わることもできた



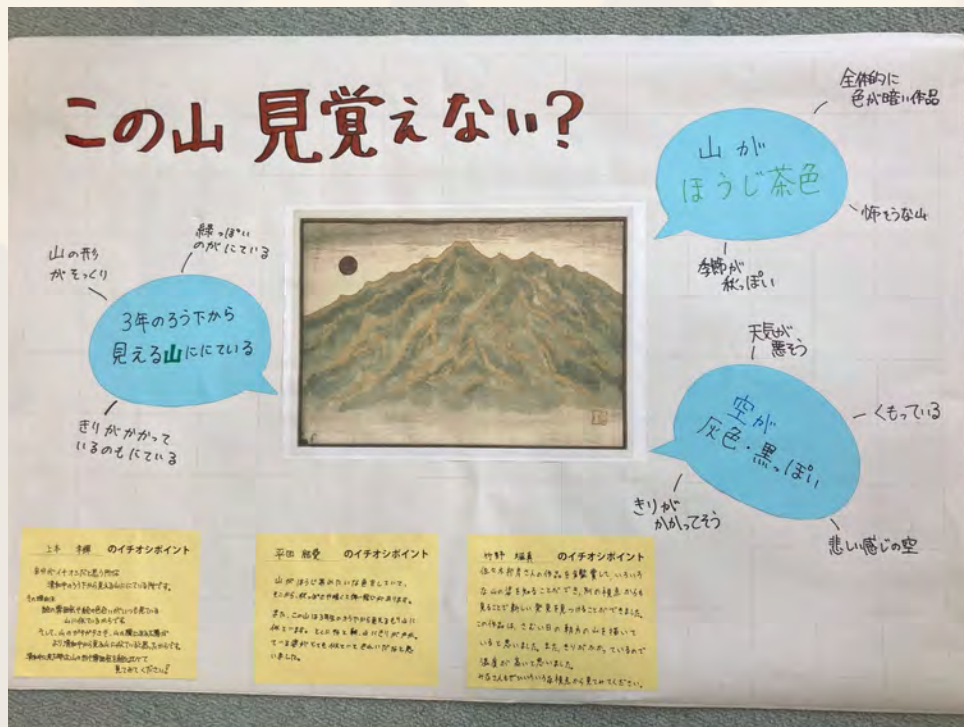
掲示物制作中の様子



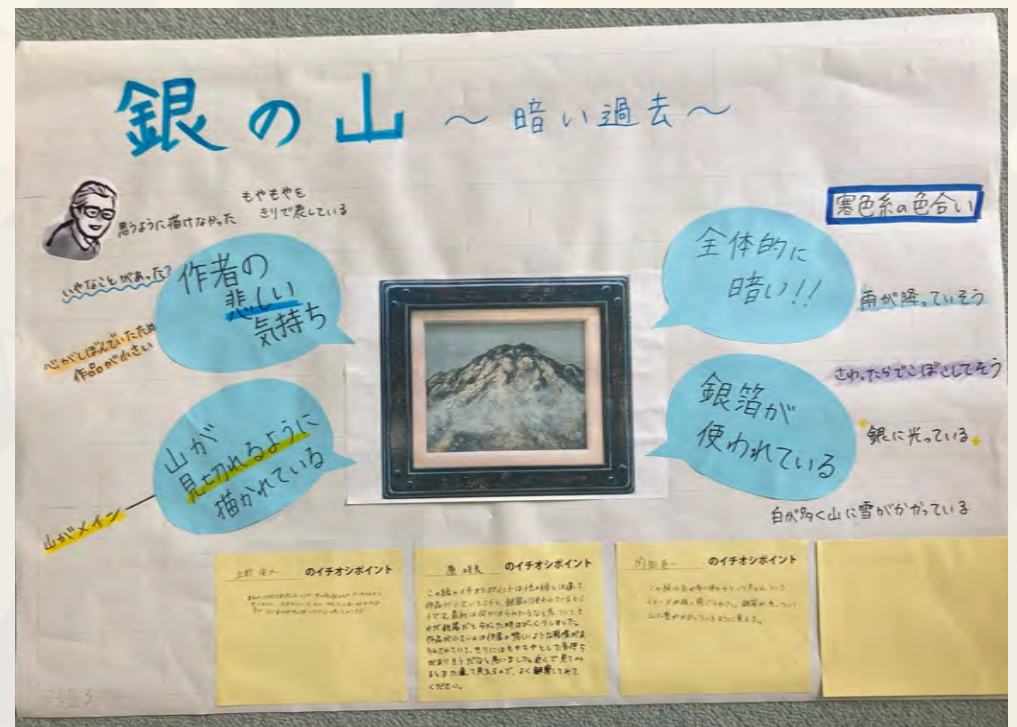
少人数体制での指導の様子

中学校での出前授業

実際の生徒作品（抜粋）



色から天気や季節を予想したもの



使われている画材に注目したもの

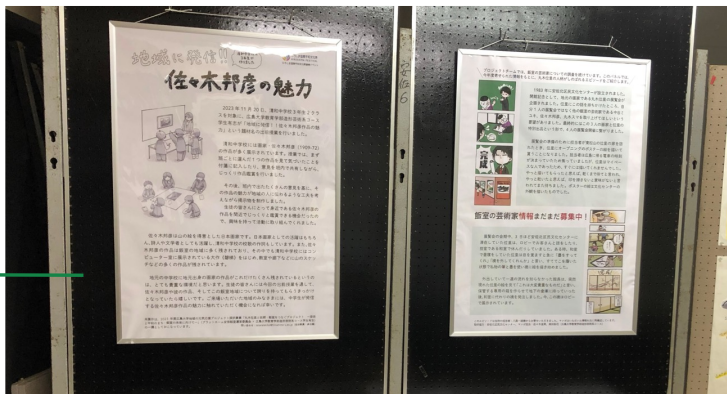
成果発表

パネル展示

□期間 2024年 2月21日～3月17日
□場所 安佐公民館ロビー

のべ **1222人** の来場

プロジェクトの
紹介パネル



佐々木邦彦
の作品



出前授業の
成果物

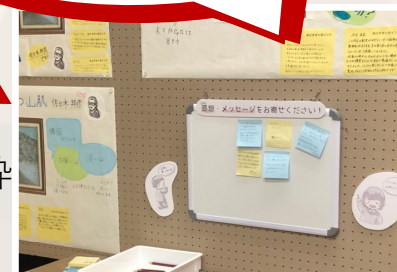
展示を見た地域の方の感想

コメントを見てから作品を見るとまた違った見え方や発見があって興味深かった。

地元を誇りを持ち続けてほしいです。

(中学生が考えた)山のタイトルも個性的ですごく面白かった。

来場者コメントより抜粋



成果発表

小冊子の作成

同郷の画家ふたりは友達

丸木位里と佐々木邦彦のつながりを年表等でまとめた

●活動の広がり

活動を通して地域の方から寄せられた画家の逸話を掲載



佐々木邦彦年譜	丸木位里年譜
1908 飯室にて誕生	1901 飯室にて誕生
1928 絵を始めるため京都へ	同郷で交遊のある中丸木生と中村ミキの影響も受けて画家を目指す
1934 川端龍子に師事	1941 赤松俊子（のちの丸木俊）と結婚
1939 青龍社初入道	1943 原田信子と付き合い 広島に一時移居
1944 徳之島守備隊存続を主張	1950 《樹木の国》第一部「飯室」を発表
1945 陣中で陣歿	
1950 本格的に山を描き始める	1967 東松山市に居る丸木米太郎画展を見る
1955 『明石ゆく甲斐駒』（1953年南無美術品）を飯室小学校に寄贈	1983 安佐北地区文化センターで「地元芸術家展（昭和期）」に26点出品
1957 詩集『ケロイドの鳩』刊行	オアシス・スタジオと文化センター・飯室の間に《松竹梅園》を描く
1962 依頼を受け、清和中学校授業作例	1995 死去
1972 死去	

2023 児童館でのワークショップ

2023年度は、本冊子で取り上げている清和中学校での授業のほかにも、飯室小学校の児童館で丸木米太郎の画法である「押し染」を体験するワークショップを8月4日に開催しました。「押し染」は、絵を描きはじめた当時の筆を使うことに限られていなかった丸木米太郎が用いた、絵の具をつけた筆を紙に押し付けるといった画法です。その画法を用いて、参加児童32人で4本の大きな樹を作り上げることができました。

8月6日のアートイベント「ミライへ」では、この作品を駅舎カフェromui（旧安芸飯室駅）に展示し、来場者に観てもらうこととして、コメントカードを書き添えていただきました。イベントを兼ねた後も児童館、そして安佐公民館で開催された作品はよりたくさんの方のコメントを身に付けて来場者である地域の方々とも来場者による交流が生まれることとなりました。

寄せられたコメント（抜粋）
みんなの言葉が伝わってきます。この中のように、この風景をずっと愛していらしていいかなと色や筆のスタンプなどもいい風景を愛して完成が楽しみです。

地元芸術家 絵画・彫刻展

位里とポスター

1983年に安佐北地区文化センターが設立されました。顕彰記念として、地元画家である丸木位里の展覧会が企画されました。位里にこの話を持ちかけたところ、自分1人の話を持ちかけた他の飯室の芸術家である中谷ミキ、佐々木邦彦、丸木米太郎を取り上げてほしいという要望がありました。最終的にはこの3人の画家と位里の特別出品という形で、4人の展覧会開催に繋がりました。

展覧会ポスターのお話

展覧会の準備のために担当者が東松山の位里の家を訪れたとき、位里にオープニングのポスターの絵を描いてもらうことになりました。担当者は広島に帰る電車の時刻が決まっていたため焦っていましたが、位里はマイペースな人であつたため、すぐには描いてくれませんでした。やっと描いてもらったと思えば、乾くまで待たせられ、やっと乾いたと思えば、印を押さないと言われたと言われてまた待たされました。ポスターの絵は文化センターの外観を描いたものでした。

佐々木邦彦と清和中学校

このページでは、広島市立清和中学校3年生の生徒の皆さんが鑑賞した作品とその作品に対する気づきをピックアップしてまとめています。

鑑賞した作品について、生徒さんたちが感じたことや、自分たちが描きたい作品について、色んな意見が飛び交っていました。

「山が主人公の山」と「銀の山」と「もうそろそろ冬」の作品について、生徒さんたちが感じたことや、自分たちが描きたい作品について、色んな意見が飛び交っていました。

●地域施設へ配布

清和中学校、児童館、安佐公民館、旧安芸飯室駅舎カフェromuiなどに配布

芸術と平和を未来へ

児童館でのワークショップや連携授業など、若い世代をターゲットにした活動について掲載

●明るくポップな紙面

漫画を交えたり、カラフルにまとめたりと、幅広い年代の方に手に取ってもらうことを目指した。

プロジェクトに参加して

- ・今まで地元の県の中にある場所であったにもかかわらず知らなかった、飯室の芸術家について知ることができた。
- ・実際の作品を鑑賞する機会をプロジェクトの中で持つことができたことにより、これまでの自分の作品鑑賞に比べて作品から得られる情報量が増え、自身の知見を広めることができた。作品の写真撮影や記録整理などを通し、作品の扱い方についての知識が身についた。
- ・ワークショップや授業を行い、展示方法の工夫やわかりやすい授業構成、授業題材の考え方が身についた。地域の人々と取り組むことのできるプロジェクトが作れるという点から、伝え方には展示や発表の場だけではないことを痛感した。

地域の方のお声

- ・ 楽しそうな学生たちの笑顔を間近で見ながら活動するなかで、芸術や作品そのものの良さは、その人自身に魅力があるからこそなのだと気づくことができました。
- ・ 過疎化が進むなかで、アートのまちづくりの一環として「芸術と平和のまち」飯室を広島大学のみなさんの若い感性と行動力でますます充実させていただき、広めていただきたい
- ・ 丸木位里・俊夫妻の活動を若い世代にこれまで以上に伝えたい
 - 冊子のなかで紹介された「飯室の芸術家マップ」を一層発展させてほしい
 - 地域の作品の訪問記の作成、ガイドツアーの実施などをしてほしい

ご清聴ありがとうございました

これからも飯室が「芸術と平和のまち」であり続けますように～

